

独立行政法人
宇宙航空研究開発機構(JAXA)の
20年度 年度計画について

平成20年4月9日
宇宙航空研究開発機構
理事 小澤秀司

平成20年度年度計画の概要(1/4)

1. はじめに

第2期中期目標期間の初年度となる平成20年度は、第1期の成果を継承、発展させ、宇宙航空分野の研究開発・利用をはじめとした社会への貢献を目指した取り組みを一層推進するとともに、「独立行政法人整理合理化計画」も踏まえ、更に効率的な業務運営の実現を目指し合理化・効率化、随意契約の見直し等に取り組む。

2. 事業の推進

◆ H-IIAロケットにより、温室効果ガス観測技術衛星(GOSAT)を打ち上げる。



- JAXA／環境省／国立環境研究所の共同開発・利用プロジェクト
- 温室効果ガス観測センサを搭載し、温室効果ガスの全球の濃度分布を測定
- 亜大陸レベルでの二酸化炭素の吸収排出量の推定精度を高める
- 京都議定書に基づく組織的観測の維持及び開発の促進に貢献
- ◆ 相乗りとして小型副衛星(SDS-1等)を打ち上げる

平成20年度年度計画の概要(2/4)

2. 事業の推進(続き)

◆ 国際宇宙ステーション日本実験モジュール(きぼう)の初期運用と打上げ準備を行う。



- 船内実験室、ロボットアームの打上げ準備、スペースシャトルによる打上げを行い、船内保管室(平成20年3月打上げ)を含めた軌道上初期検証を行った後、軌道上運用に移行。
- 船外実験プラットフォーム及び船外パレットの輸送、射場での打上げ準備作業を行う。
- 日本人宇宙飛行士によるISS組立ミッション、実験操作等の実施。

◆ 以下のプロジェクトについて所定の計画に従い開発を進める。

- 水循環変動観測衛星(GCOM-W)
- 雲エアロゾル放射ミッション／雲プロファイリングレーダ(EarthCARE/CPR)
- 全球降水観測／二周波降水レーダ(GPM/DPR)
- 準天頂衛星 初号機
- 金星探査機(PLANET-C)
- 水星探査計画(Bepi Colombo)
- 電波天文衛星(ASTRO-G)
- 宇宙ステーション補給機(HTV)
- H-IIBロケット
- LNG推進系

平成20年度年度計画の概要(3/4)

3. 業務運営の効率化

◆ 柔軟かつ効率的な組織運営

ミッション実施機能と専門技術研究機能との連携を強化。

◆ 業務の合理化・効率化

- 経費の合理化・効率化： 一般管理費の削減及びその他事業費の約1%削減。
- 人件費の合理化・効率化： 人件費の約3%削減(対17年度比)。

◆ 情報技術の活用による業務の効率化、確実化

プロジェクト支援や業務運営支援のための、情報化推進。

◆ 内部統制・ガバナンスの強化

- 経営層による厳格なプロジェクト管理の実施。
- 一般競争入札を原則化するなど、契約の適正化。

平成20年度年度計画の概要(4/4)

4. 主な数値目標

	20年度目標	(19年度目標)
◆ 人材交流	500人 ^(※1)	(150人)
◆ 宇宙教育指導者(ボランティア)育成	200名	(なし)
◆ コズミックカレッジ開催	40回	(なし)
◆ 共同研究	420件	(400件)
◆ 技術移転(ライセンス供与)	45件	(なし)
◆ 施設・設備の供用件数	50件	(50件)
◆ 査読付論文の発表	350件	(なし)
◆ ホームページ・アクセス数	月600万件	(月400万件)
◆ タウンミーティング	10回	(なし)
◆ 講演会の実施	400回	(200回)

※1:20年度は客員研究員、企業からの出向等を含めた目標

(参考) 今後の打上げ予定

(平成20年度予算ベース)

	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)
H-IIA/ H-IIB	<p>▲ 月周回衛星 (SELENE) 9月14日打上げ成功</p> <p>▲ 超高速インターネット衛星 (WINDS) 2月23日打上げ成功</p>	<p>△ 温室効果ガス 観測技術衛星 (GOSAT) 〈小型副衛星相乗り予定〉</p>	<p>△ 準天頂衛星 (目標)</p> <p>△ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 実証機 H-II Bロケット試験機</p>	<p>△ 金星探査機 (PLANET-C)</p> <p>△ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 運用機#1</p>
その他	<p>▲ 宇宙ステーション きぼう船内保管室 (スペースシャトル) 土井宇宙飛行士搭乗 3月11日~27日 ミッション成功</p>	<p>△ 宇宙ステーション きぼう船内実験室 (スペースシャトル) 星出宇宙飛行士搭乗</p> <p>△ 宇宙ステーション きぼう船外実験 プラットフォーム (スペースシャトル)</p>		

注) ▲は打上げ済み

21年度以降の計画については、必要な予算措置が講じられるとともに、開発が順調に進捗することを前提としており、今後の見直しによって変更がありうる。